

朝日中高生新聞

Asahi Student Newspaper

©朝日学生新聞社
〒104-8433
東京都中央区築地 5-3-2
朝日新聞社新館 9階
☎ 03(3545)5223(広報)
☎ 03(3545)5222(編集)
購読申し込み 0120-415843
ウェブサイト www.asagaku.com



天声人語 ヤングケアラー支援の提案を 7



特集 公共の場をアートで明るく 12,13



ブック 日本最大級のマンガ図書館 21

SDGs CO₂集める「ひやしー」 11

ミライ プログラミング(最終回) 17

映画 人生に役立つヒントいっぱい 24

家族の世話担う子ども ヤングケアラーに気づいて

家族の代わりに…

家事

きょうだいの世話

見守りや気づかい

アルコールなどの問題がある家族に対応

家計を支えるために働く

長期的に看病

身の回りの世話

日本語が第1言語でない家族のために通訳

障がいや病気のある家族のために…

日本ケアラー連盟の資料をもとに作製

イラスト・林美香誇



市岡元気さん

©朝日新聞社

母が統合失調症 幼い頃から看病が「普通」

「母について一番古い記憶は、幼い頃『体の中に宇宙人がいる』と言って、ガスコンロであぶられたことです」

そう話すのは、サイエンスアーティストの市岡元気さん(37)です。「物心ついた頃から、母は統合失調症という病気で、3歳の時に両親は離婚。母と弟の3人で暮らすことになりました」

症状は浮き沈みが激しく、薬を大量に飲んでしまうこともありました。市岡さんが小学3年生の時、母が精神安定剤を大量に飲んで自殺未遂し、入院することになりました。そこから入退院を繰り返す生活になったといいます。

食事の用意など家事は、近くに暮らす祖母と協力して行っていました。「小さい頃からずっと同じ状態だったので、日常になっていました。看病しているという感覚はなく、『これが普通』と思って暮らしていました」

母子家庭への援助や生活保護を受けていたので、生活費にはそれほど困らなかつたといえます。それでも友達の家と比べればお金はなく、「旅行なんてもちろんできませんし、3千円の服もものすごく高く感じていた」と振り返ります。

子どもの話も聞いて

高校生になり、大学進学の話や親戚や母にすると「大学には行かずに働きなさい」と言われたといえます。「それでも、自分の人生だから自分で決めないと後悔すると思い、勉強をがんばった」と市岡さん。クラスや部活動のリーダーなども務めて内申点を上げ、推薦入試で国立の東京学芸大学に合格しました。

母のごとや学業面での不安について、周囲には相談しづらかつたといえます。市の母子家庭を支援する会に入っていました。職員と母が話すことがほとんどで、知りたいたことがあっても自分から聞かないと教えてもらえなかつたそうです。

「子どもにとっては周りにはいる大人がすべての世界です。市役所の方などは、親だけではなく、子どもとも話したり、いっしょに考えてくれたりするといいなと思います」と話します。

大人の代わりに家族の介護やきょうだいの世話をする子どもは「ヤングケアラー」と呼ばれます。中高生でおよそ20人に1人いることが、国による初の全国調査で明らかになりました。結果を受け、政府は支援策をまとめるなど、解決に向けて動き出しています。中高生の時に、病気の家族の世話をしていた人たちに話を聞きました。(小勝千尋)

▼2面に続く